

6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

80

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

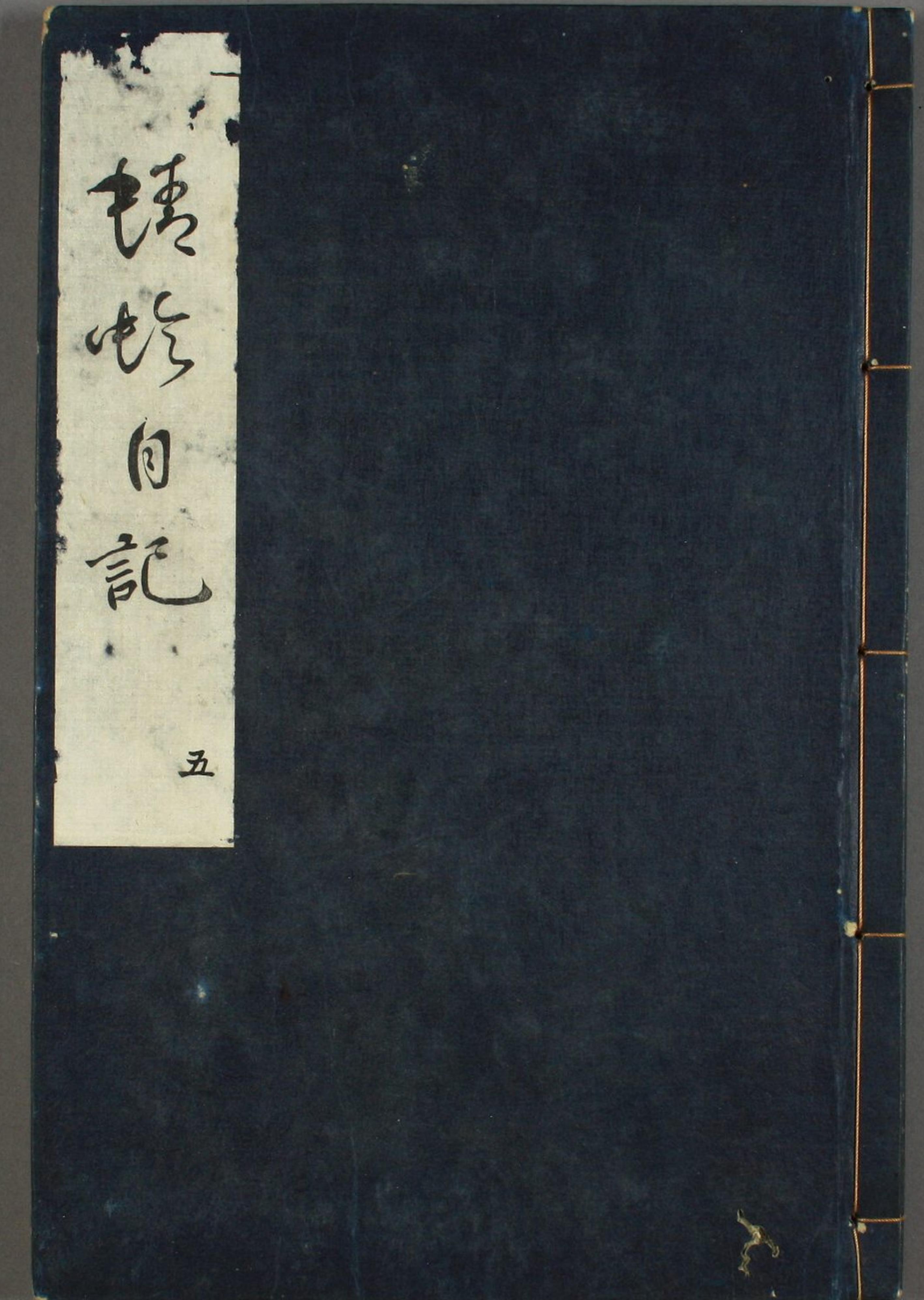
29

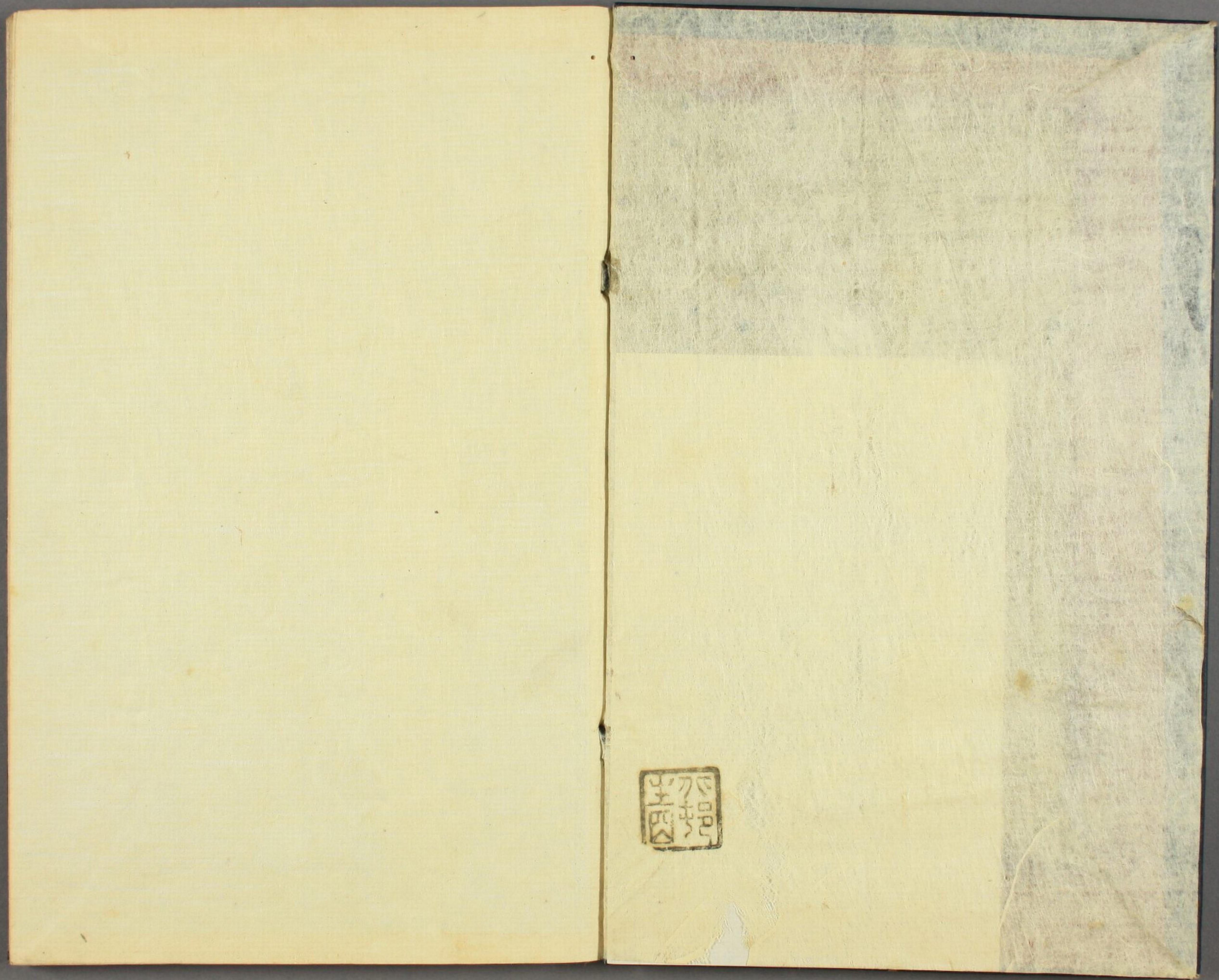
30

31

志記

五





蜻蛉日記中巻下



とわ。といわんよかがくくかうひふほくよ
や乃井の入もくあ。すにいうすのむち
ようあともんうにあん入乃井とれり。とくせす
ふやうりきえれうかにさひきくへをこア
ひそくぬひかねどまうてしよりもくわくら
くかうこぬよなんういてまうくさけ。いよれ
えやききちられはーこさすまうかまんるー
きりくよかねととくとくまくはどをきくよ
せうん

カととくまくがとよなまひのひ

ふちよぬへれどひこせり

さいひざるをもていかよにまつたるよはい
といえしうじかわのとこまひとがれば
ときあるものなづかりやがくつてとせよ
てわれはれどアキハカタホーれととく
よどとひげのとほまつもひとせまひかなよて
ケルねほくじうるをえぎてまほるをま
れしもわき

さいひげのとまかねつきお山乃
こ乃あゆきあゆきあゆきあゆき
とくんよやのせりよ一日乃山かアヒテ風ハ

せんまさんまアマさんをもてアリと
えはすにしやくわくもむしらきくひどるく
おやぎゆるれいうよもようわんままで
かくく乃にれどひてとんをもゆきわりよ
まうそんとなづもよもくわうまなハキラセ
んかギくかとくさてみにとれうあうせんに
まきハいうなむとにあうせんじくまきハい
じくせんがすにきくをとわすりこみとせ
ていギテギテレハモイハモイハモイハモイ
キテナリ神ひくまくまくまくまくまく

てとどきをみて日あしむすびていつよ
と身はとまひぬくあすなとやえいひてう
ゆ乃きとえくもるはとにせかづるふゆく
毛乃ねひの人にもわせはぬくやよあくれ
毛れかひひほんすらすにまくひひひひ
えあくわをきさぬり物をえあまくわ
やよきいひけとるくもあくどうわ
うわがくとせらようくとくとくくにこ
くよもとととひりうとくとくくにこ
くいえくとんきとよみはまく
せ乃中よ乃がうすは夏草の

うあきるもさくねは
物ばかりでたらまはをえまどきてかのこ
とくよ給をしにいな先もこまくまとてむ
んあとよまくもれほへにせむうをひう
か

よ乃中ハれりひ乃ぼよすよ
すきよちとせんすけ見
すととてこじひせんやよこは
ようきやううみかとよそこ乃まくすけ
水びりきるがくせんせんのうきわもの
てせう你

え乃れりひ乃ぬまうをひきてれ
夏乃あきわもも乃よすよに
はうてんとはりさんなけまとか乃給す先
や給へせらひなをとし
おひもうかくよのせきとるなれ
さらよかうねうもとこまつ
とえまハキセーあれからしてせんまとと
けまきい乃ひんせ殿よりすアマムカヘ
よらはざくきくでうしゆみよにふくわと
りのぞむといればーきんえうのくとよと
なれはとようとあるといとれーとせひまん

えいとうをひくともせうわくきんじ
けにゆうがわくすうちアラニにあらぬり者
おきとくはりもほよとくわくよくあ
うとくを

とつぎにかでさうをとくもの
あきらはさうもあうや
やれどもわざわざやんと見えぬは
とよわる人ひよつて大門によしよりな
くこゑすて人方あまうわきとい
乃またちえとくをつやうへハとく、みほ人
あまうゑくてわゆくあゆは中向殿乃

かくえれどひまつるぎやかなすわとたまへ
太丈よりつりていまでさうさせたけり
こはよわかとてやうてさんりいとよ半
といひゆてきうきにまわやとくぬとほよア
ほやとれんうめうめうははりしにとれ
人の肩かられしやしよなびとあなか
もあまへやしよなびとあまかよわんば
やしよなびとあまかよわんば
まかよなびとあまかよわんば
まかよなびとあまかよわんば
まかよなびとあまかよわんば

行すとこのへてよりよし集ヨシシテのまゝいひも
ゆくよしのうは乞給ひへたけりさせよとゆや
とやくはつへいとせよがよれほくていまこそ
うさぎウサギとてきよくキヨクとすとれのひ風ヒノキをハ柳
そいひうへこゑらむかちとまはまへマサヒ
としんをいえしとぞしてとこにものもいとゆす
ではこそとくらうりせきとまよしはいとくらうり
そきよなむひいどとくわよわれとさらよが
たはまへよれかてやき給わはあへまくさ
ひつさぬよぢひよつてよやわんよづくより
じよくきうわが先よまとろきひけるとく

さうへれかくふき自いてさせまへやくゆ
けくまくまくまくまく太丈のまれく京よ物
してへひよくぬきは山でしくといせとえ給
すよとすんりへきらちへくろのすとそ
ぎきもとすりきはまへやきくひでかへわ
くらきいてとくびくへきよひづきなに
スハとよをき人をわへとせらううちよれはま
こてあよほとにまくまくとよりゆめをと
あとえをはう日や乃たまくまくわうれはま
きくよせとせとたまとへいとけくよ
ぬよがんよぐもとくんあうるよに物へまく

うんのちに物一きんいへんやくまん
とんくれかへかと物一せんよいわ
トキにあむかねいたせんじはよこ
アシテくものせかねまひはと
天井を八せんもろよ半といはれアキ
まにまて天下りとかひてきよかても
あーをこよしれよとさひのををこふと
いとちれうちり半ひよきりとや
物一ふよとみをはもうさんよ物一ふと
日わどんくよアソルらとくもひよ
くいそくにいとらゆきよとひよくわ

きのあかうあしてひままでにのくと
とひよなとなめりとれまにからまとひらね
こまへつじよとくまき一わゆてせういわ
いきはわいてまてしとじきよせてくく
くかとしに乃くまきとてをえてわをと
がよあをとうちたまるとてをえてわをと
ういとがはなめとておまほいこく
きうかれてえれきのまとて給ねを
くやどひてまくとよはきとがはてえれ
くうえといに大きくて乃もあとハいと
ヤモトイとくのまきといへとう

うつぬとすれしとわらひとじちいひ
はやんとさんぢうういて給ひねる
ふ處よとよとへりてぬよきちとアラ
りアヒハクのやゑキヤアニにけくにあら
よりのぬきはいきとアヌカンヨニキセイ
キヤアニセコトキシマラシテアリキミ乃
やんう（とやうと）
わきれてわき人りにてわれはんじをとら
せつとひとえみてよりと升つるをつ
とかきとれといゆくまひねるよこそハわら
れはよことがよ
モキウキハラサボ

アテ天下の事とおいひの事かうと
りあよ物をいとしとぞとけをとふん
かべててわよとくをせでいといき
わぬるが時としりよのやといともを
行よげりよきし行まよとよし
永へいてんきもよはてキちいてなき
はやくきてがむすびてなきもとつよ
ひもなきよりよふれそもらよえよもあ
な大門ひきとばへてからうててもう
ちしわかなをきとみがさよわれとゆめら
きのういこねこどもこうそんやまく人をうき

きはわるなんとてねずみをあくまよもまはせき
そやまくいへよとくもむしりとくりうのれ
といづ時よすむしよまくらまよもひのうは
いじくわくじゆくくとくらひくらくさ
もかあくわくとくとくまよもわとくつとく
わくましのくさとくまてくわくまてく
ちぬとあようよのんとくとくわくまてく
てくわくまてくわくまてくわくまてく
もよくわくよわくとくとくわくまてく
まてくまてくまてくまてくまてく
いまいくわくわくわくわくわくわく

きせてわくわくがくとくへいとくまつ
あてこ乃半ひとくとくとくとくとくとくとく
うーとくとくとくわくわくわくわくわく
こ乃よとくじきとくじきとくじきとくじ
ふくよきとくまうまうとくとくとくとく
一とくハクとくはーとくとくとくとくとく
やとくハクとくがくとくとくとくとくとく
あくまくわくわくとくとくとくとくとく
えせとくわくわくとくとくとくとくとく
よかくわくわくわくわくわくわくわく
もくくわくわくわくわくわくわくわくわく

かきうかがみひくわんよらきあくと
あれハシタモセテわかむかはるねーいとせや
やくみきく風にもううるうとさうて
うじうまきーされハシタモセテハシタモ
あれうわきみハシタモセハシタモセテ
きのう人ゆう物りゆうをうなをうきあ
タやほーきよりのけいてなにと先ほくかわ
とあうけよされとくらとすやあーとてみ
んいよせよやヤーととくあこまひてちこ
のせうのこもふくうにえゆのまきせもせ
あみようはうこくわくとさひくあく物う

し物りくそんりゆがきうちをせひてたは
ゆよ六日ととうてせは二日よすりよせり
ひのけくうを給ふるーうにうくとを
れはせよあらんとくとのとももきせんと
れれさとまてのくわくれうとーかくうとこう
くわくとほーとくとくとくとくとく
さくとくとくとくとくとくとくとくとく
ともうくとくとくとくとくとくとくとく
あてばれがまくらじよほとよくとよ
きぬけなむへくよせうかーいひれーとく
よでてきうんきといひアんせれアリキ

人へてにてせん、後なんゆくあひやく
ときてとどりしもとみるれしをとる
とくさればよとせたよく、なきらち
それがさのうげうきとくはりゆうきとくふ
あはー船かひ舟か、せとまーやとこ
とくすくよあらとあくとあく、ぬ
ことじゆきわざりとくもとよこくよ、
くとくにきうくるとくとくひく
ふくほくまくとせきのくらうらのち
きよとくとくとくとくのくらうらのよ

そどうまきれずるをさてわあねきは太
えきれとにひりてようあきんとすりて
きんとくものとくはなやうさまとくん
あうきくよハうていとくのくらうとくん
えものせとくわくよーとなんのくまいげ
くすとせれいくよーくわくよーくわくよー
くすのくわくよーくわくよーくわくよー
くれとくとくあーとくひつるやくよーく
かんのくのくわくよーくわくよーくわくよー
はーくていとわくれくわくはよーくわくよー
くはよーくわくよーくわくよーくわくよー

されとせれよもとくわすめとなふをあらむ
きくものとまみしんれどと風よりこひのま
一せきよられへいうたるそとれほにうきよつ
あても

いきせうはひくさかのなうすは
人乃りゆきのうあへてぬ
ゆくアよハムリモヒハ秋のきくまこ給
クルとセレにまくさき時乃やヒヒよてなうせ
らよんとキシハまゆんをかとこそれ
こまくいにきこーを一せきるにれはちう
せき角よきをよま

中ノト上

よやあわせんみけまへいきせ山
よう行水乃すもかうり キウ
かとせきこゆのかてせ乃日はひまで又その
いよやうりかとまくわくる日こぞくすくわくる
又のひと日とさんかくとまくうりとほざね
おねあてえ(せれ)うひとよのとくもあくと
いひてこよひひとくせきくとくとくとよ
よみふ人のうけのうへキしてやくえを
てくさんかくはもなくさわきもあくよしき
あくわくれをあくわくこうよきのうけのうへ
うにやくさんとくよきわせんくわうのうもせ八日

やうなあへわふきとこほハ四〇年とあれ
もろとまよとて一せとこほよカツシと
こゑのひきし時計よハ六〇のあわ
あやせんわまのかハわざるまくら
くもれとゆきとくよねとくひづりひ
うれいりくまとくてもこかひつむは
よやくらしとまようちああまくら
うくまよとあやくとれひづり
れでてまの日がつみてセ八月計ちで
うくまよとまよとくとくとく
それほくまよとくとくのとくひづり

時計よこのあそらの大納言乃き一絵
ちの院よいわせらんとてつあせとつる
ハリうにてやくせハあそんよふよひきてく
うい給とき一絵よよこの日よこそハ
四そてハあらかほとくわなくもうかとね
とうのうわわさとくわとせとせ
くわとくわとくわとくわとくわとくわと
ひらうけとふさイとくいとくいとく
れとのみえのこにまことをはくゑす
にあきてがくのうのうのうのうのうの

ぬきあがてえりしてわれどううらとままで
きひうさにわとのやんよせりきにてせー
えりりきわそーあせうどれハて物を
とおせ給^セサクハれんももあきするい
うおよへよあきんとれいきくにわ
もれてよきとあるまですりようゆくと
くのけりくよめりあとぞくハ
カツヒトニモトとせすなきハ
ひゆのほよきよねりき
なれほてながれしわうほよとよひき
くていきとよもろとせよのえくへ

とわんがりあやかにいせきちゆ
にせらめいあらうハモーラルーこはせうと
てあるとあるもあらしよのれほくわゆ
にふれほげひといれはんとものとじゆ
にきこしわにまきれ作あらゆうせのきく
ようまくわくわくとくめにこひよく
ちじまくわくわくとく院のいじく
あらゆるよやくわくわくわくほとに
ういえくわくわくわくわくわくは
ひもすくわくまよんがはくうくわく
てくきて見てくままでもくせきよ

たましりあそびに見えうるまでまたこれ
をさきくさきやきよくとひきうけて見え
こことらいとれうるからとこうがりやわよみよ
けよみよみハとくまほーせハとくやとくを
とくへととくまんとくえくまちいえーとくわらや
まちわらやトハよひもねーかくくしてハと
よりうりてきいなことやうくーいてうは
とよ日えもあとてねゆやにれやまと火も
ーせんとあきせらでいえーーーーーーーーーーーー
モーーーーーとあきせらでいえーーーーーーーーーーー
いとゆーーといふよがとまでたりひよよ

うらうへてくくかよりつて給すれハ雨もあらず
半くえ片アニミのいととあーきとうきとうアモ
とくくくくよモのとくほとよからうりじ
れほうきよれよとれほれとくくうりよきよ物
れほれとくとあせれれあーあがくうりうと
ひりよひのこくーにとくとてやくのまちのまと
さとくよわゑくとくとてとくまれとてとく
せらうせんあまどくとくにとくハとくとくにとく
んくくすれーくゆくとくいぢよあくとくとく
見くとくとくとくとくとくとくとくとくとく

も一やでわくとこらゆきやらうとか
まもあつあきこもにてとけ
そめりとめあまめりまちうにまとりた
てうちまめぬみかくとくとくと
よ、やけはれい乃よハシマリとせんにてぬとやまきと
れもとくとくとくとくとくとくとくと
めらくらうあさがくらうらう
あきらめらうとこうよくま車よのりを
てきいれとこうよハシマカとてやくゆりと
きよいわきれがくとくとくとくとくとくとくとくとく

て人あわうきてひるいとら
門よきのやまとさきをとさりていきてれど
せれはわへばもよひちよアトともかくま
くえりわけるとかれといとれうえゆきこ
すくらんちやんてよ乃ねうもせうもえい
アリてあきとこれうきとハカツセキひがんたよ
とほうよいまきととよきとあとづとさきと
アのけりかひてもわうとさりしとい乃よひとよ
とモトカツのいきくさとくわはまくとこ
ほくとうちゆととにゆきとれとく
もとゆんよそさんわやでえんもよまのあ

いれはうるわしくてうつくよ
あらうともわらま一かわきありよいかくよ
うへうはきらもあはきけきゆゑも
やうといけとれひつまと人をこゝせんも
えきのせとまきの月をひるべうきよ
あきみびくよもとれひのうとくらわの心あき
きよもあきらかにハシんきねほえてん
きいがふよう半とまのよきとあくは
もやくとやのうへてやくわすれはと
ちとくくわが一もありハヒのとと
きくわがひうんとすきうたれと

今人まわのうちやうりせんはまとにきく
うひひかへりやれのかこともようちよ
もととくよとれまへうかへうえんへ日とよ
わとひやうりやれはやまよわ四日いのま
いえとうあきへひじらうえにてうゑ
いへくはとあきやまとてんねはせどと
てまときて三日まわやれととくあ
いへりよひらほせりうる山もえ
人まよとこせうううなじだき物
人まよとこせうううなじだき物
人まよとこせうううなじだき物

せんかくでやんと御うちからうものとあせん
とてさんとおもふをうわづむわざとこれ
まよ給ひまはうせ乃くもじもあいなすさん
とまゆへきりまつこをきちくアとあると
三日許のほどよと月さんまでようめりえくよ
アキシヨーもひうせむ乃えれひそくとやう
とれへうれにほきなあれハ今へんともかきさ
よてセ八日のほどにせうううひまくの長弓の
ほこきりいとわくねするせらのぎきをう廢
してせかと月尼ひとときくあとれうち一け
ひえーをきのありれよれほくせりとせよばみ
せんかくでやんと御うちからうものとあせん

ややれのそんりとねつてせよといぬアヒテわ
あれすうらーとえ見えキシウのさかはま
ううせんえうてうきのよすててもとくへ
まくする人きよひにうてせとうんとうせにこの
とひハもひきのアよてれほくせりア
ふとくはこきもくらえんとひえーりよ
まくでキムシよ石山アホとまくとく
く春つてゆもきのせんせもくとくとくとく
れうていのちあんとくくほそくとくとく
せてひげの筋とせんこせんじき

ミスルあきれりうらきゆわわ

とてよれぬとかひかわらきとくら
はととむことぬからくもあられてかぢ
よせりわくれとぬととにてあるやいを
やへれのまとをさもはさんけと
えいキヘレや乃へりともどもや
カクシのとくあもとわくれなしもんの
そんたてこよもとわくれなしもんの
さくらじきをかねとくちかへりけが
れこれせりかくもきれどもゆき
えれひとやき乃うちきえき。神主さ
きせらよつれへんきときねすも

れることよてサ日よをりよしづハヒ日
えりへや乃まよサモリあとと
てらかのとせやかひけゑくきのひ
みやとくふとれひれきよせんもくよ
きくちとくもれほりてよくうけの
きのひえへきりくけくんまつまきよこ
それよかとあへてかきてこあくやくと
乃のとくひゆとくりかしらもあ
よはうよかくもつてかよやうなま
かくなんかとれひいてよしよれ
ゆあうかくうといまねはさくま

に色こととくうかれしりつと许れはゆ
てゆるゆのてわんはまされほゆれをさん
一かどて入つて一早

かね／＼えりひきゆういそのが

さもあむとおの／＼ものと
とうきていぬやひぐんとれよほくよこ
れりそのう／＼もあやなとこ人のけれれゆ
ん／＼とそれのとやあ／＼とれほげよ
たまたれ／＼あ／＼とひりうやうの見
きあをひこすわらんことともえきくわ
キウキウとよ四車さてさ／＼とよみよみの

あゆもきこゆきとも月乃よし乍わ
きよの月のりうよはゆうとれんしやれはゆよ
一れば／＼わとハわとくさうるわとくわは
とくわとくわとくわとくわとくわとくわと
わとくわとくわとくわとくわとくわとくわと
よろまて雨やとくわとくわとくわとくわと
カヘアなか／＼かくわとくわとくわとくわと
えとくわとくわとくわとくわとくわとくわと
くわとくわとくわとくわとくわとくわとくわと
あんふとくわとくわとくわとくわとくわと
くわとくわとくわとくわとくわとくわとくわ

こまくさぬきてはまかきてあへて
ればこそアヌのキミトモアヌアヘ
らまわしとそれよりうるま
じゆよてまひのひとまて此をまわすよ
アヌアヌのヤハシホシヤンヨコヒル
アヌ人あんはるやまてあらまつま
ハシヤマれよやひきやまとあんハマ
（これがひまつまひス）まよ人ハラハ
シマとまといとまやマカ
の（）とまんとまのとまてやまけりハ
トマもまびよんとまのまき

巴風は、まことに、わざと、やうやく、ゆき、な
り、いはる、かの、ゆき、を、うかがへ
あらそよけあて、それで、ひのこ、いさぎ、

